

キョウジョシギ

Arenaria interpres (Linnaeus)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では、福井新港の造成期には周辺の湿地で度々記録されたが、2002年以降は記録がない。本県には砂浜や干潟等の生息環境が少ないことが要因として挙げられるため、今後の動向に注目する。

種の特徴

全長 22 cm で、嘴は短くて上に反っている。夏羽では頭部～胸は白地に特徴のある黒いしま模様で、体の上面は赤褐色、白と黒のまだら模様が特徴である。砂浜、海岸の岩石地や砂利地等に飛来し、甲殻類、貝類、昆虫類やクモ類、植物の種子を食べる。

分 布

旅鳥として、海岸の砂浜や河口付近の砂泥地にも現れるが、岩礁地帯を最も好む。本県では、海岸の砂浜や岩礁地帯、稀に近くの休耕田で確認されている。

生息を脅かす要因

本県の主要な飛来地は、造成途中の福井新港であった。しかし、造成が進むにつれて飛来環境はなくなり、三里浜の面積も縮小し、飛来環境は悪化したままである。シギ・チドリ類は減少しており、中継地造成等の対策と本種が好む岩礁地での調査が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
						○					○						

オバシギ

Calidris tenuirostris (Horsfield)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県には単独または数羽の群れで飛来し、個体数は少ないものの安定して記録されている。しかし近年は、渡来数に減少傾向がみられるため、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長 28.5 cm で、夏羽では胸斑が密にあり黒帯のように見え、肩羽は赤褐色の斑が目立つ。嘴は黒くて、頭部の長さよりも長い。砂泥地で、嘴で探りを入れながら、昆虫類やクモ類、甲殻類、植物の種子等を食べる。

分 布

旅鳥として砂浜や干潟等に渡来し、地域によっては大きな群れがみられる。本県では、海岸や河口部の砂泥地、久々子湖等で確認され、稀に休耕田でも確認されることがある。

生息を脅かす要因

福井新港の造成時には造成中の池の岸辺でよくみられたが、造成が進むにつれて飛来環境はなくなり、現在は海岸の砂浜や久々子湖畔が主要な飛来地である。このような環境は本県には多くないため、現状を維持していくことが必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会鳥獣部会（1998）、大西・真木（2000）、高野伸二（2015）、中村登流・中村雅彦（1995）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
	○		○			○					○						○

ミュビシギ

Calidris alba (Pallas)
チドリ目・シギ科

【福井県カテゴリー】新：要注目

旧：—

【環境省カテゴリー】—

選定理由

本県では、1980年代の福井新港の造成期には定期的に飛来していたが、2002年以降は2件しか記録がない。これは本種が好む砂浜や干潟が本県には少ないことが要因として挙げられるため、今後の動向に注目する必要がある。

種の特徴

全長 19 cm で、嘴は短く足は黒い。夏羽は頭～背は茶褐色だが、冬羽は頭～背は灰白色で、小型シギ類の中で最も白っぽくみえる。砂浜の波打ち際で波に合わせて動き回り、ハマトビムシ等の甲殻類を食べる。

分 布

旅鳥または冬鳥として海岸の砂浜に渡来し、数十～数百の群れがみられる。本県では、県内最大の砂浜である三里浜での確認例がわずかにあるに過ぎないが、冬季の記録もある。

生息を脅かす要因

本種の定期的飛来地であった福井新港では、シギ・チドリ類の多くが、造成途中の池の岸辺を採餌と休息に利用した。新港の造成は三里浜の面積を縮小させ、彼らの中継地は悪化したままである。シギ・チドリ類は減少しており、中継地造成等の対策が必要である。

参考文献 福井県自然環境保全調査研究会（1998）、中村・中村（1995）、大西・真木（2000）、高野（2015）

市 町 別 生息情報	若狭町	おおい町	高浜町	美浜町	小浜市	敦賀市	越前町	南越前町	池田町	永平寺町	坂井市	越前市	あわら市	鯖江市	勝山市	大野市	福井市
											○						○